Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第44号
2025年（令和七年） 2月21日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（2月13日～19日）の国際石油市場は、トランプ政権によるウクライナ停戦交渉の開始と欧州側の反応、関税政策の動向、世界経済への影響、寒波襲来等を主な要因として、前半は軟化、後半は堅調に推移した。

NYのWTI原油先物市場は、13日、続落の71.29ドルで始まり、14日は3営業日続落で、70.74ドルを付けたが、3連休を経て18日反騰、19日は72.25ドルの続騰で終わった。

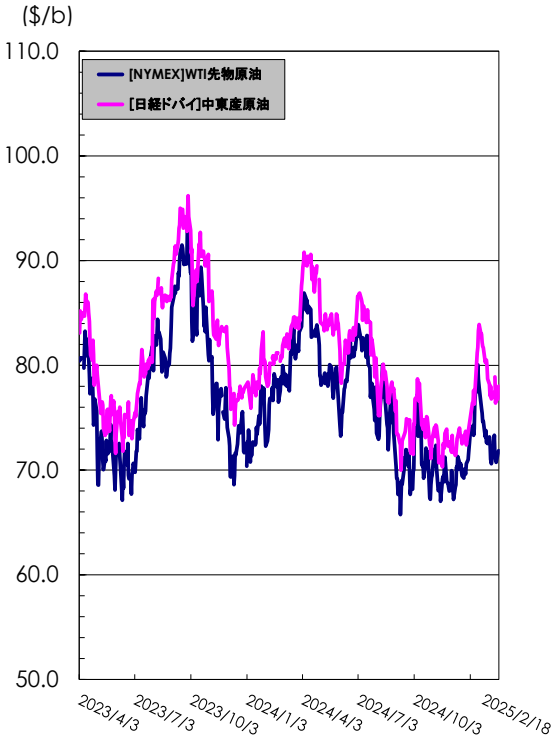
また、中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）も、前週（2月6日～12日）は76.80～78.90ドルの範囲で推移したが、当週は、2月13日76.40ドル、14日76.80ドル、17日76.80ドル、18日78.00ドル、19日78.40ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（2月6日～12日）151.30～153.26円の範囲で推移したが、当週は、2月13日154.51円、14日152.81円、17日151.91円、18日151.67円、19日は152.14円だった。

財務省が2月19日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、1月下旬の原油輸入平均CIF価格75,987円で前旬比271円高、ドル建て76.75ドルで前旬比0.49ドル高、為替レートは1ドル/157.39円。また、1月月間の原油輸入平均CIF価格75,724円で前旬比2,363円高、ドル建て76.57ドルで前旬比0.07ドル高、為替レートは1ドル/157.23円となった。

そのような中で、2月17日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も0.1円安、灯油は同横ばい（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は184.4円となった。2月20日～26日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、13.1円（補助金がない場合の次週予想価格198.1円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比0.6円の減額となった。

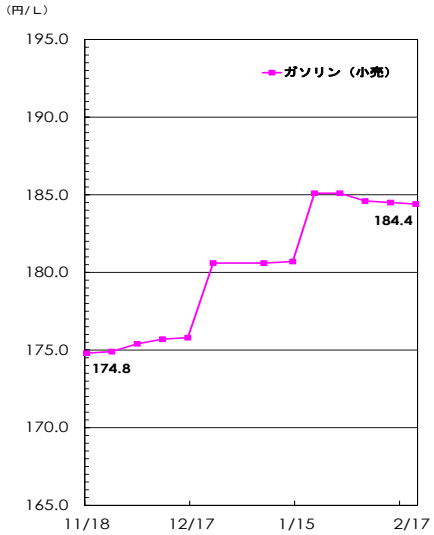
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/9 ～ 2/15	2,680	▲ 52	▲ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	77.4	▲ 1.5	▲ －
	原油在庫量	（千kl）	2/15	10,124	▼ -265	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	2/17	76.80	▼ -0.60	▼ -3.8
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	2/18	71.85	▼ -0.47	▼ -6.3
	原油CIF単価	（$/bbl）	1月下旬	76.75	▲ 0.49	▼ -9.03
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	75,987	▲ 271	▼ -1,723
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	157.39	▲ 0.45	▼ -13.36
	外国為替TTSレート	（¥/$）	2/17	152.91	▲ 0.05	▼ -1.88



（単位：千kl、円/㍑）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/15	1,626	▼ -116	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/11 ～ 2/17	86.0	➡ 0.0	▲ 5.0
		（TOCOM/中部）	2/17	84.0	➡ 0.0	▲ 4.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/17	184.4	▼ -0.1	▲ 10.1

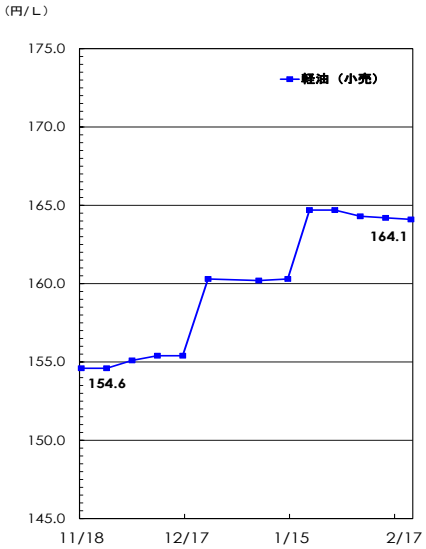
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

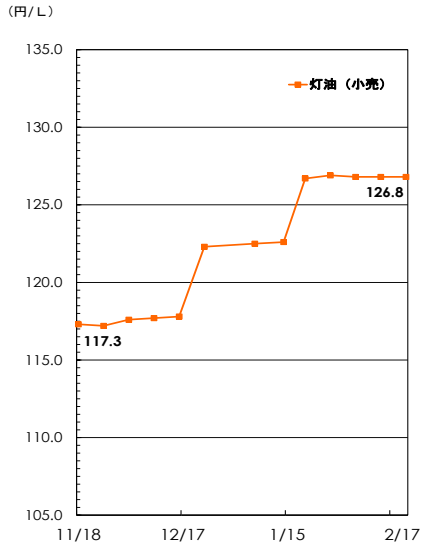
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/15	1,357	▼ -67	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/11 ～ 2/17	88.8	▲ 0.6	▲ 6.8
		（TOCOM/中部）	2/17	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/17	164.1	▼ -0.1	▲ 10.1

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㍑）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		2/15	1,694	▼ -115	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/11 ～ 2/17	88.0	➡ 0.0	▲ 5.5
		（TOCOM/中部）	2/17	87.0	➡ 0.0	▲ 7.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	2/17	126.8	➡ 0.0	▲ 10.2



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（2月6日～12日）のNYMEX・WTI先物市場は70.61～73.32ドルの範囲で推移した。

当週、2月13日は、前日のトランプ・プーチンの電話会談で、ウクライナ戦争和平交渉開始に合意されたことから、緊張が緩和、ロシアからの供給増加懸念が発生したこと、また、トランプ大統領は「相互関税の検討を指示、取りあえず「関税戦争」は先送りされたとして、続落した。ただ、国際エネルギー機関（IEA）は2月月報で2025年世界石油需要見込みを前年比110万BD 増と従来見込みを10万BD上方修正、これを好感した買いもあった。3月物終値は前日比0.08ドル安の71.29ドル。

週末14日は、米国の1月の小売売上高が前月比・市場予想を下回り、経済先行き懸念が発生、また、ミュンヘンにおける欧州安全保障会議の開催など、ウクライナ和平への期待が高まり、ロシア原油増産の懸念から、3日続落した。ただ、トランプ政権の原油輸出制限を含む対イラン経済制裁の具体化示唆で、下値は固かった。3月物終値は同0.55ドル安の70.74ドル。

17日は、大統領の日の祝日につき休場。

連休明け18日は、前日にロシア南部のアゼルバイジャンのパイプラインがドローン攻撃で稼働に障害が発生、供給不安が拡大し、4営業日ぶりに反騰した。また、この日、サウジのリヤドでは、米ロ外相を中心とするウクライナ停戦に向けた協議がウクライナ抜きで開始された。3月物終値は同1.11ドル高の71.85ドル。

19日は、ロシア南部のパイプライン障害は、約40万BD程度の送油停止となっている、また、北米寒波の影響で、ノースダコタ州の産油量が15万BDの減産が予想され、続伸した。ただ、トランプ大統領の自動車関税の追加賦課指示による世界景気悪化懸念が、上値を抑えた。3月物終値は同0.40ドル高の72.25ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の14日時点の在庫週報は、17日祝日のため一日遅れの20日の発表予定。

EIAによると、2月17日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.0セント高の1ガロン3.148ドル（127.0円/㍑）と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.2セント高の1ガロン3.677ドル（148.4円/㍑）と3週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、2月14日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の481基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年2月9日～2月15日に休止したトッパー能力は40.0万バレル/日で、前週に対して7.4万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は268万klと、前週に比べ5.2万kl増加。前年に対しては2.5万klの増加。トッパー稼働率は77.4%と前週に対して1.5ポイントの増加、前年に対しては3.5ポイントの増加となった。

4　国内/製品在庫量

2月15日時点の在庫は、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった

ガソリンは162.6万kl、前週差11.6万kl減。前年に対しては17.7万kl少ない。

灯油は169.4万kl、前週差11.5万kl減。前年に対しては9.1万kl多い。

軽油は135.7万kl、前週差6.7万kl減。前年に対しては19.5万kl少ない。

A重油は72.1万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては1.2万kl多い。

C重油は168.8万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては17.0万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (2/15)	前週 (2/8)	前週比
ガソリン	1,626	1,742	▼ -116 (-7%)
ジェット燃料	722	740	▼ -18 (-2%)
灯油	1,694	1,809	▼ -115 (-6%)
軽油	1,357	1,424	▼ -67 (-5%)
A重油	721	750	▼ -29 (-4%)
C重油	1,688	1,685	▲ 3 (0%)
合　計	7,808	8,150	▼ -342 (-4.2%)

5　国内/元売会社製品卸価格

2月11日～17日のドル建て中東原油価格は前週比ほぼ横ばい、為替レートもほぼ横ばいで、元売会社の卸建値は据え置いたものと見られる。ただ、補助金は0.6円減額されるため、2/20からの実質卸価格は値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

2月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の184.4円、軽油も同0.1円安の164.1円、灯油は18㍑ベースで同横ばいの2,282円（1㍑ベースでも横ばいの126.8円）。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが13県、横ばいが9道県、値下がりは25都府県だった。全国最安値は愛知県の176.7円、その次は岩手県の177.7円であった。他方、最高値は高知県の193.8円。最も値上がりしたのは島根県（同1.4円高）、最も値下がりしたのは沖縄県（同1.2円安）だった。

次回調査時（2/25）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(2/17)	前週　(2/10)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	184.4	184.5	▼ -0.1	23/9/4	186.5
	灯油	126.8	126.8	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	164.1	164.2	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第45号）の公表は、2/28（金）14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。